

# 情緒の結び目



過去の情緒から  
今の情緒を俯瞰する

今の情緒を通過して—  
過去の情緒に会いに行く



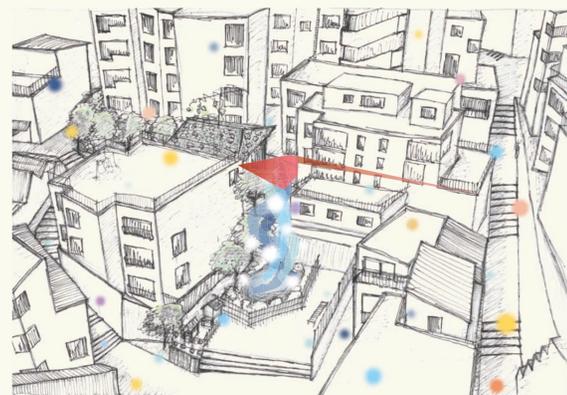
## 設計趣旨



新宿区荒木町  
かつて天然の滝と地形の流れによって生まれた池を中心に、花街が栄えていた  
茶屋、見世物小屋、料亭—  
すり鉢の底に、花街の情緒が潜んでいた



その後、建築が次々と建てられ、花街は風化する  
それでも、すり鉢の底を囲う、不揃いなスカイラインと密集した建築群の隙間に路地空間が、  
いまの荒木町の情緒となっている



今という情緒と過去という情緒の結び目をつくる  
かつての花街のはじまりが、池のほとりの茶屋であったように  
建築と建築のあいだの茶屋から、池を俯瞰する  
これからの街の情緒の在り方を見つめていくために  
このかけがえのない、地形が生み出した情緒を再び  
人々が、掬い取ってくれることを願って

## 池のこと



荒木町の一体は、美濃国高須藩藩主・松平義行のお屋敷が占めていた  
その摩園内に天然の滝を伴った「策(むち)の井」と呼ばれる泉があった  
すり鉢状の地形盆地部分に水が溜まる  
長さ130M、幅20~40Mの大きな池になった

「策の池(むちのいけ)」を中心に  
見世物小屋、料亭、茶屋が軒を連ね、芸者が行き交う風情のある花街として有名になる  
明治以降の都市化で、湧水が出なくなり、滝は消滅



花街は消え、小規模の Snackbar やバーが主流となる  
料亭や芸妓屋の跡地に多くのマンションが建設される  
池は長さ10M弱、幅5Mに縮小し、現在の姿になっている